



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	II-4 日中共同研究「カラマツ再生林の機能評価」について(II)
Author(s)	小宮, 圭示; 杉下, 義幸; 外崎, 勝美 他
Citation	北方森林保全技術, 19, 57-57
Issue Date	2001
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67643
Type	journal article
File Information	hopposhinrin19-P57.pdf



Ⅱ－４ 日中共同研究「カラマツ再生林の機能評価研究」について(Ⅱ)

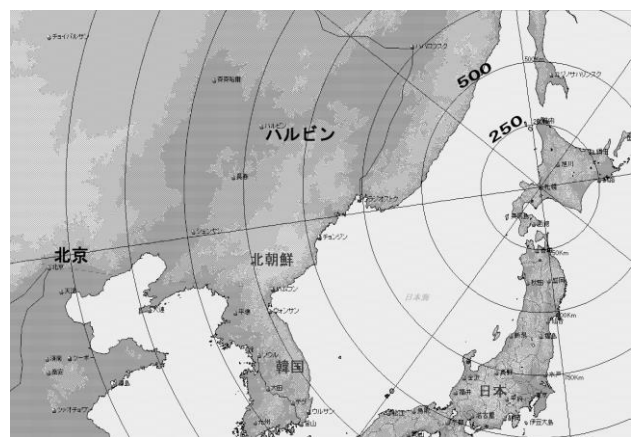
北ステーション	小 宮 圭 示
天塩地方演習林	杉 下 義 幸
演習林技術部	外 崎 勝 美
演習林研究部	小 池 孝 良
	笹 賀 一 郎

はじめに

本共同研究の背景と目的・具体的内容等については北方森林保全技術第 18 号で報告をしているので参照して頂きたい。今回で2回目となる東北林業大学への訪問日程は 2000 年 11 月 6 日から 10 日までの 5 日間で行われ、日中共同研究調印式、グイマツ F1 の植栽試験および水文観測機器の設置が主な目的であった。

1. 日中共同研究調印式

11 月 7 日の 9 時 30 分より日中共同研究調印式がおこなわれ、会場には中国語で「“落葉松再生林機能評価研究” 啓動儀式」と大きく掲げられていた。中国側の出席者は東北林業大学長はじめ大学関係者および中華人民共和国科学部科学林業省、黒龍江省の関係者が出席された。



2. 老山実験林

老山実験林はハルビン市から東へ約 80km の距離にある。隣接してある四つのステーション(26,400ha)のなかのひとつのステーション(6,500ha)であり、今後の調査研究の拠点となるところである。ここには、実験・宿泊施設のほか気象・水文観測施設があり、主な樹種はカラマツ、チョウセンゴヨウ、モンゴリナラ等である。(詳細は北方森林保全技術第 18 号参照)

この老山実験林で、グイマツ F1 の植栽試験のための植え付けおよび水文観測のための現地打ち合せをした。水文観測については当初、機器の設置を予定していた。しかし、建設済みの量水堰に問題点があるとの指摘が現地スタッフよりあったため、今回は機器の設置はせずに、機器設置方法、操作手順、サンプリング方法等を現地スタッフと綿密に打ち合せをおこなった。機器の設置については、後日、中国側スタッフに実行して頂くこととした。

3. 老養嶺実験林

もうひとつのステーションである老養嶺実験林は、もと東北林業大学の本部施設であったところである。ここは 224 名の職員(現職 156 名うち技術系 57 名、定年後も居住していれば職員としてカウントされている)で管理されている。年間千人以上の学生実習等の利用があり、副産物の生産などの多角経営がおこなわれている。

4. おわりに

今回の訪問には石教授、王講師をはじめ多くの東北林業大学の方々にお世話になり感謝申し上げたい。また、この共同研究をととして日中の調査・研究の交流が発展していくことを期待したい。